◉日本教育思想史の研究　和魂漢才說

文學士　加藤　仁平著

天滿宮の信仰は日本思想史上極めて重要な地位を占めて居り其の天神の眞作として一般に信ぜられて居つた菅家遺誡、就中其の第二十一、二兩章の思想、特に和魂漢才の說は社會の各方面に甚大なる影響を與へたものである。本書は日本教育思想史の研鑽に力を盡されてゐる著者が其の研究の第一卷として之を世に公にされたもので菅家遺誡中の和魂漢才說に就き之を歷史的に研究し、遺誡の僞作であり且つ第二十一、二兩章の竄入である事に就て古來の學者の說を擧げて其の經過を觀察し、進んで此の遺誡の後世に及ぼせる影響等を詳細に考究したものである。全編の約三分の一は昨年哲學研究誌上に「菅家遺誡とその和魂漢才說」と題して發表されたものを增補訂正したもので、他は其後新たに研究されたものである先づ第一章に於ては遺誡の諸本及び和魂漢才碑について研究し、第二章では僞作されたる遺誡に對する竄入の研究を爲し、第三章ではそれらの竄入の背景として和魂思想發展の一部を示し、第四章では遺誡の後世に及ぼせる影響、第五六七章では竄入せる兩章特に和魂漢才說の影響を論じ、第八章では竄入後の大和魂と和魂漢才より和魂漢洋才への發展を觀察し、最後の第九章は全編の結論である。あらゆる方面より多數の材料を蒐集し、それに依つて頗る綿密なる考證を爲してあつて、小西博士が序文に云はれてゐるやうに「從來の傳統的解說が學術的に其眞實相を明かにされ」て日本教育思想史上貢獻するところが少くない。（菊版三五四頁、東京培風館發行、價三、八〇）

◉傑僧卍山

森田清之助著

曩に美術工藝史上の偉人本阿彌光悅の傳記『光悅』を著はされた著者は今回更に佛教史上の偉人たる卍山道白禪師の事蹟を探究して之を世に發表せられた。禪師は元祿の頃曹洞宗二百年來の弊風であつた宗嗣法の紊亂を慨き之を古制に復せしめんとして老軀を呵して奔走し、あら

ゆる迫害を事ともせず、隱忍持久遂に三年三ヶ月の後漸く夙志を達し以て宗門の墮落を永遠に匡救した教界の一偉人であつたが、從來其の事蹟を傳へるものは極めて少く、僅かに洞上宗統復古志、卍山廣錄卷末鷹峰和尙年譜に載つてゐる位のもので其の事蹟を系統的に研究したものは未だ見なかつたのであつた。是れ著者が本書を編纂された所以である。全編を上下二卷に分ち上卷を序說、卍山禪師の出生と其時代、父母及庭訓、師承及道業、道交、演法講莚、住持職たりし寺院、開祖に推されたる寺院、嗣法資、下卷を曹洞宗統の革幣、宗弊革正運動中源光庵に寄せられたる禪師の書簡並に其考察、附、卍山禪師書簡小錄並に其考察、外護及知己、禪師の人物、文藻及卍山廣錄、禪師の筆蹟、示寂、遺跡源光庵、逸話の十八章に分ちて禪師の事蹟を詳細に叙述し、附錄として洞上宗統復古志につきて、禪定寺住訪錄、卍山會記事が載せてあり卷首には禪師年譜及び法系が揭げてある、就中宗弊革正運動中源光庵に寄せられたる書簡並に其考察、書簡小錄並に其考察には書簡の全文を揭げて一々考證を加へてあつて大に讀者の參考となるもので、本書は當こ佛教史家にとつて必讀の書であるのみならず一般教界の人々にも稗益するところが多からう。（菊版三三四頁、京都鷹峰源光庵內卍山會發行、價三、五〇）〔以上松野〕

◎蓮如上人傳の研究　佐々木芳雄著

蓮如上人は單なる眞宗中興の祖に止らないで、我が室町時代に雄飛した宗教的偉人であり、國史上の大立物でもある。隨て其教俗二方面に於ける活躍の考察は興趣深いものがある。著者は若くして夙に上人傳の研究に志し從來公にせられた傳記類や先輩諸氏の研究論文を讀破し、更に諸國の行蹟を遍歷する事多年、一々出據を訂し乍ら世間未知の新史實を採訪して著はされたのが卽ち本書である。前後兩編に分ち前編には上人の一生として、生立ち修學巡化、山科本願寺再興、諸國門徒と坊舍の創立、大阪坊舍の瓣建及び入寂等、後編には上人の事蹟中目星しいものを選んで御文の撰述、教團の膨脹と其統制子女及び門弟、一向一揆と上人の四章を收めてゐる。就